

# ミステリ読書案内

2024. 3. 15 発行元

第559号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 内藤了「藤堂比奈子シリーズ」

黒い背表紙の角川ホラー文庫から出ている内藤了の『猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子シリーズ』を取り上げる。併せて、その後に続いた『東京駅おもてうら交番・堀北恵平シリーズ』についても触れることにしよう。

### 『猟奇犯罪捜査班シリーズ』

『藤堂比奈子シリーズ』は2014年にスタートしているが、私は「ホラーだし…猟奇犯罪かあ…。あまり好みではないなあ」という理由で手を伸ばさないまま昨年まで済ませてきた。でも、実際に読み始めてみたら、思ったほど怪奇中心ではなく、荒唐無稽なストーリーでもなかったのに驚いた。一部に現実にはちょっと不可能な要素が入っているものの、警察小説として十分に完成された作品になっている。

ということで、内藤作品を一気に20冊以上読むことになった。

### 人物中心の描き方

「ホラー」ということで猟奇犯罪のおぞましさに目が行きそうになるが、内藤作品の良さは登場人物の描き方に魅力があると言える。藤堂比奈子にしても、『おもてうら交番』の堀北恵平にしても、若い女性の警察官がくじけそうになりながらも、自分の使命を果たそうと必死にな

る姿が読者を惹きつける。

そして主人公を取り囲むかなり特殊な面々の人物造形がよくできている。スピンオフにも登場する検視官の石上妙子にしても、分析官の中島保にしても…。世間的に言えば「もう狂っている人」の範疇に入るような人たち…。

### シリーズ物としての良さも

第一巻目に当たる『ON』は日本ホラー小説大賞読者賞受賞作品。この時点ではシリーズ化は考えていなかったようだが、その後の展開を読み進めていくと、シリーズ物としてよく考えられた構想であることがわかる。

八王子西署の刑事組織犯罪対策室に配属された比奈子は、内勤で過去の事件ファイルの整理を任されている。自分の手帖に独自のイラストを記入することで細かな情報を記憶する特殊な能力。ある日、覚えていた事件の犯人が自死したようだとの連絡が入り、ベテラン刑事の厚田に現場に連れて行ってもらう。

### 内藤了・角川ホラー文庫

猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子シリーズ

- |         |              |
|---------|--------------|
| 1. ON   | 6. ONE       |
| 2. CUT  | 7. BACK      |
| 3. AID  | 8. MIX       |
| 4. LEAK | 9. COPY      |
| 5. ZERO | 10. BURN(上下) |

藤堂比奈子シリーズ・スピンオフ

- |                  |
|------------------|
| 1. パンドラ 検視官・石上妙子 |
| 2. サークル 捜査官・厚田巖夫 |
| 3. OFF 分析官・中島保   |

東京駅おもてうら交番・堀北恵平シリーズ

- |           |
|-----------|
| 1. MASK   |
| 2. COVER  |
| 3. PUZZLE |
| 4. TURN   |
| 5. DOUBT  |
| 6. EVIL   |
| 7. TRACE  |
| 8. LAST   |

次のシリーズもスタートしている。

そこから過去に事件を引き起こした人物が、そっくり同じ手口で死体になっているのが続く。そこから次に浮かび上がってくるのは、未解決になっていた幼女惨殺事件…。

### 他シリーズもそれなりに工夫が…

内藤了は現在多くのシリーズを展開している。『鳴瀬青花シリーズ』『夢探偵フロイト・シリーズ』『よろず建物因縁帖シリーズ』『憑依作家雨宮緑シリーズ』などなど…。

### 『LAST 東京駅おもてうら交番・堀北恵平』

2022年に角川ホラー文庫から出

たシリーズの最終巻。このシリーズの主人公は長野県出身の女性警察官の卵である堀北恵平(読みは「けっぺい」…女の子らしくない名前が嫌がっていたのだが…)。第一巻では警察学校の研修を終え、東京駅おもて交番に研修のために配置されるところから始まる。毎朝勤務前に東京駅の駅舎に深々とお辞儀をする姿が印象的。明治から続く東京駅の建物に警察官としての心構えを誓うのであった。そんな彼女は、ふとしたことから駅の地下道を通じて「東京駅うら交番」の前に出てしまう。そこには柏村敏夫という人物が勤務していて、美味しいお茶をふるまってくれた。そして、過去にあった事件の話をしてくれるのだった。巻が進むにつれて、「うら交番」は昭和34年～35年の出来事で、恵平は地下道を通じてタイムトリップしていたことが明らかになってくる。現在の事件と過去に起きた事件の繋がりを追求していくのが本シリーズのテーマ。

最終巻に当たる本書では、「うら交番に行った者は一年後に死ぬか行方不明になる」という都市伝説の期限が迫る中で恵平、刑事・平野、鑑識課の桃田、資料課の浦野などが協力して過去に起きた猟奇事件の真相に一步步近づいていく流れ。靴磨きのペイさん、ホームレスのメリーさん、居酒屋のダミさんなど恵平を取り巻く人達の気持ちが伝わってくる一編。最後は地下道の工事が進んで…。柏村の運命はいかに…。